

# 運送業界の健康支援を生きがいに

## 84 運転者の5人に1人がSAS

OCHISのSAS(睡眠時無呼吸症候群)スクリーニング検査は、平成16年度から全国に先駆けてスタートし、全ト協のSAS事業のモデルとして、またSAS検査指定機関として、実績と信頼を積み上げてきました。23年度の8000人を超えたOCHISのスクリーニング検査では、23%の疑SAS者が判明し、その内の9割が精密検査でSASであるとの確定診断を受けています。つまり、トラックドライバーの約20%、5人に1人がSASというわけです。

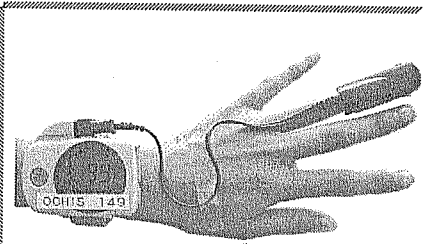
◆SASの事故確率が7倍  
管理者の皆様、ドライバーのSAS検査はもうお済みですか。全国的に居眠り運転による重大事故が続発し、国が制度の見直しまで踏み込んで着手しているこの時期、一刻も早くSAS検査をスタートしてください。

◆居眠り運転は過労運転でない  
最近「てんかん」事故も居眠りと同等に社会問題となつていますが、その罹患率は0.5~1%未満で、SASの20%とは比較対象にもなりません。さらに道交法では職業ドライバーの就業は禁止されていますので、基本論で言えば、トラック事業者がドライバーのてんかんを心配する必要はないわけです。ドライバーのSAS検査を急ぐことが先決といえます。

◆居眠り運転は過労運転でない  
最近「てんかん」事故も居眠りと同等に社会問題となつていますが、その罹患率は0.5~1%未満で、SASの20%とは比較対象にもなりません。さらに道交法では職業ドライバーの就業は禁止されていますので、基本論で言えば、トラック事業者がドライバーのてんかんを心配する必要はないわけです。ドライバーのSAS検査を急ぐことが先決といえます。

多くのSASドライバーが、居眠り運転による度重なるヒヤリハットと闘いながら、命が削られるような恐怖を感じているのではないのでしょうか。ところが職業ドライバーの場合、居眠り運転は過労運転との結論に達するケースが多く、原因究明の焦点(責任)が企業サイドに当てられがちですが、事故原因はもっと複合的です。

◆本心に怖いのはSASの放置  
SASは飲酒運転よりも怖いと言われていますが、「確立した検査」「治療法」があり、コントロールさえできれば、むしろ安心して運転できます。本心に怖いのは、SASに直視しないで放置することです。OCHISにご連絡いただければ、全国各地の事業者様に検査機器(写真)をお送りします。もちろんOCHISのSAS検査は全ト協の交付金事業です。



☆SAS検査のお問い合わせは  
TEL 06-6965-3666



理事 作本 貞子

《全日本トラック協会・大阪府トラック協会 SAS検査受託機関》  
NPO 法人 ヘルスケアネットワーク (OCHIS)  
「安全と健康を推進する協議会(同輪会)」代表  
TEL : 06-6965-3666  
FAX : 06-6965-5261  
E-mail sakumoto@ochis-net.com  
HP <http://sas.ochis-net.jp/>

(次回は7月6日号に掲載)